

平成 25 年度 わくわく市民懇談会

- 1 日 時 平成 25 年 11 月 19 日（火） 午後 6 時 00 分～午後 8 時 10 分
- 2 場 所 高遠研修センター
- 3 出席者 高遠区民 13 名
市長、随員 2 名
- 4 次 第
 - (1)開会
 - (2)高遠区長あいさつ
 - (3)高遠区農業委員あいさつ
 - (4)市長講話
 - (5)質疑応答・意見交換
 - (6)閉会
- 5 市長講話

○市長講話

本日はお招きいただきありがとうございます。私の考えの経過をお話しさせていただければと思います。今日は、夢をおおいに語りたいと思います。

中野市の将来戦略と地域連携

- 将来について遠くを見て、これからの変化をとらえて地域を作っていかなければいけない。
- 日本の人口であるが、鎌倉時代に700万人しかいなかった。江戸時代、8代将軍の吉宗の時に人口調査を行います。その時の人口が3000万人です。明治維新を迎え、産業化をしたところピークアウトしたのが1億3000万人。今は上り坂から下り坂、すなわち減少に入った。これも国策によって変わってくるが、現在の政策を見ているとこのままだと人口が減っていくのではないかと。減少時代にはいったという転換点にきている。今までとは違った環境に入ったということである。
- 日本の高齢化率は10数年、世界一が続く。中国はひとりっ子政策を転換したが、働き手の人口が足りないためである。GDPは人口規模と相関関係がある。しかし、豊かさの中身については、人口規模と相関関係はないということも抑えておかなければいけない。そのため、人口減少を深刻にとらえることはなく、豊かさの中身を良くしていかなければいけない。ちなみに長野県のGDP水準は、スロバキアと同等である。
- ミクロ的には、人口減少は、地方税の減少を招き、財政圧迫を招きます。また、医療費が上がる。元気な高齢化社会を作れば、医療費が減ります。プラスの消費につながります。ある意味、医療分野は成長分野である。日本の医療費はそんなに多くない。世界でも中位である。その中でも長野県は長寿で健康なエリアである。こういうものを外に向かって宣伝したいと考えている。
- 人口減少をよく見てみると、深刻になって考える必要はなく、ただ、これを前提として、施策を打っていく必要がある。

北陸新幹線開業と人流の変化

- 短期的に見れば、北陸新幹線の開業で人流、波の変化が起こると考えている。

- 観光分野を無視することはできない。いままで中野市は観光ではなく、生産拠点、生産供給基地としていたが、もったいない話である。産業観光というものがあり、人を呼ぶことは可能。ここが農業の先進地域とすれば、人を寄せるタネがある。
- 観光は地域ブランドを認知してもらう事である。これから中野市をどんどん宣伝していくが、今、仕掛けとして考えているのは、先日、teachme というソフトを導入しました。これは市の職員がやることではなく、地域の人、市民にいいところを発信してもらいたい。
- 新幹線が開業するとストロー効果が必ず生じる。例えば、長野の人が東京へ買い物に出る。松本の人でも 3 時間かけて東京に買い物へ行く。そういう移動人口が増え、地元の購買が減ることは明らか。ここで買い物してもらうためには、東京にないものを提供しなければならない。それを工夫した方がいい。
- これからは中野市だけではなく、連携が必要となってくる。例えば、小布施町は 20 年前からまちづくりを始めて、あれだけの街になったが、商品の販売力が落ちている。羊羹、かのこはどこでも売っている。そこに来なければ食べられないという意味では弱くなっており、奥行きがなくなっている。そこで、ちょっと奥に行けば、中山晋平記念館があり、音楽の里があって、この一帯、山の上の道があるというストーリーを作っていけば、観光客は歩き始めると思っている。そのためには、歩きやすい道路とか、きれいなまちづくりをしていかなければいけない。
- 山ノ内町の町長に聞いたが、スノーモンキーで湯田中に来たお客さんは、バラまつりの期間はバラを見に来るといふ人の流れが今でもある。
- もう一度整理すると、人口減少は、財政危機、医療崩壊、崩壊は日本人の医療費が少ないから崩壊しないと考えている。コミュニティ崩壊、これはあまり起きないと考えているが、ただし、高齢化社会になり、若い人がいなくなると、区の運営とかに問題が出てくる。
- この問題に挑戦している都市がある。例えば、広島県尾道市では、安い家賃で大学生を呼んだ。そのかわり、町のコミュニティ活動に参画することを条件とした。若い人を呼び込む作業をすることが必要。

地域ブランドとシティセールスについて

- 地域学、この地域をもっとみんなで誇りに思ってもらうため、勉強してもらいたい。みんなアイデアを持っているから、それを具体化するために作業してもらいたい。それから、地域ブランドとか政策とかみんなで、共通認識で問題意識を一緒にしてあたることで中野市がよくなると考えている。
- 公共交通施策について、お年寄りのことを考えると、動きやすい、外に出やすい環境、それから市民参加、今日お集まりの高遠区は、このエリアをどうしようかという団結力のあるところ。市民参加で何かができるところにお金をつけていきたいと思っている。
- この4日間、関西ヘシティセールスに行ってきた。知ってもらう、トップが行って、売り込む。私の顔が使えるならば、どんどん使ってくださいと言った。浜松のスーパーでは、「市長おススメ 中野のブドウ」という売り出し方をしていた。市長は崇め奉るものではなく、どんどん使うものである。
- あとは連携ですね。文化戦略。中野だけはここに存在しているのではなく、かつては天領で小布施町、山ノ内町まで広がっていた。かつては一緒だった。連携によると、人の流れが出てくる。自治体もこれからの時代、問題があったからやるという後付けではなく、提案してどんどん変えていくというスタンス、もっと簡単に言えば、自治体だって儲けたっていいじゃないか、自治体経営化、投資感覚で物事をやっていく。これをやったら何年で回収できるか、という感覚が必要。

北陸新幹線開業による影響について

- 新幹線が1年半後に引けてくるが、テスト車両が12月に走る。9月1日現在、金沢間の進捗については91%終了、敦賀までの用地買収が99%まで進んでいる。
- これは何を意味しているかということ、終点の金沢がまた将来、通過駅になると言う事である。金沢に寄らなくても、富山に寄るか、ということもできる。飯山駅ができるが、岩井からは目の前である。外から見れば、中野と飯山なんて関係ない。飯山にたくさん新幹線が停まるなら、わざわざ渋滞の中、長野まで行くよりも、利便性が遙かにいい。
- 東京—金沢間が2時間28分、東京—福井間が2時間52分でつながるとというのがJRの話である。

- そこで、このエリアを信越 9 市町村で観光開発しようということである。中野市が扇の要となる。どんなにやっても人口が減る中で、中野市には都市としての機能集約されている。これを魅力に、「住むんだったら中野市がいいんじゃないですか。」ということを書いてかなければいけない。都市間競争が始まっている。
- 新大阪からひかりで乗り継いで、しらさぎで行っても金沢まで 2 時間半、直通のサンダーバードで行っても金沢まで 2 時間半、そこからわずか 60 分で長野に来てしまう。この話を関西ふるさと信州中野会で話したら驚かれた。
- のぞみで東京まで 2 時間 40 分、この路線はビジネスマンが多いので、指定席を取らないと座れない。だから、金沢まわりのルートから長野に来る人が多くなると思う。名古屋経由だと 4 時間かかる。だから金沢まわりが一番早い。
- 以上のことから、関西と長野の距離が近くなってそれだけ人流が増える。

信越 9 市町村の人口について

- 面積は奈良県と香川県と一緒等、いろいろデータがあるが、人口推計について見てほしい。
- 人口、現在は 45,000 人を割ったが、20 年後の中野市は 38,000 人となる。飯山市は 17,000 人。広域連携で考えてもご覧のとおり。信越 9 市町村で 35,000 人くらい減少する。ただ、この地域の中で、中野市だけが人口減少率が少ない。
- これは何を意味するかというと、都市機能がいいから、中野市に住む。これまでの変動を見ても、中野市は 20 年後においても中心的な役割を担うということである。ただ、何もしなければ人口移動が始まる。
- そこで、地域活力をどう生み出すか考えたい。地域とは、景観や環境など、一定の空間で把握できる。(日野地区とかたかやしろの周りとか。) 分布して人間と自然との関係(分布相互作用)があって一定の共通性の指標を持つ場所。
- 人は行政区界で物を考えようとするが、経済圏で考えると、中野に買い物に来る人も多い。昼夜間人口比はだいたい中野市は 100%である。昼間出ていく人と入ってくる人が一定。これは横浜市では毎日 80 万人が東京にいき、極端に昼間の人口が少なくなる。

- 入れ子構造で考えると、日本全国で起こっていることがこの地域で起こっていると考えると面白い。どこのところまでエリアを大きくとらえて活動するか、ということでは発想が変わってくることを言いたい。
- これを頭に入れて何をやればいいのかというと、共通性を見出しましょう、共感、協調行動をとる必要がある。たとえば、市民会館をどこに建てるとか言っている間に、長野県で一番古くなってしまった。今の市庁舎も耐震は大丈夫だが、わからないものである。いつ潰れてもおかしくない。
- それよりも、もっと戦略的に外へ向かって中野市をどうするべきかと考えていた。

世の中の変化について

- 大量消費時代が終わり、安物からの大量販売からの転換が必要。少量で価値ある物が残る。
- たとえば、吉野家の牛丼。売れなくなってきたとの報道があった。消費者の嗜好が変わったということである。
- 地域の価値として、環境と景観と文化。独自性がないものは沈んでいってしまう。
- 求められる豊かさの質が変化変容している。例えば、私は横浜市にいたが、中野市の生活（空気、食べ物）の方がバラエティに富んでいる。
- 観光は交通の便と無関係である。青森県の豪雪にある温泉に人が来ている。宣伝をすれば、人がやってくる。須坂の仙仁温泉も改築したら人が押し寄せるようになった。
- 地域資源の良し悪しは関係なく、そこにいる人たちがどう見せるかで変わってくる。成功している地域に共通していることは、そこに住んでいる人たちの集団的努力が必要。

中野市の観光について

- 中野市では、平成 15 年に観光戦略を打ち立てた。たくさん事業は行っているが、内部の人すら知らない状態である。くくりもわかりづらい。

- こういう事業は整理した方がいいと思う。たとえば、誰に対して魅力を発信するのか、宣伝の仕方ひとつで変わる。
- 次にお客さんがこの地域に来る理由を考える。例えば、土びなならば、人形好きな人が来る、果物がおいしいから果物を買いに来るなど、理由を考える。なぜこの地域に来るのかを考え、地域の資産を見直してみたい。それだけで人はやってくると思う。発信のしかたを考えないといけない。
- まずは域外の人に宣伝していかなければいけない。町の人が外からきて、なんでこんなに人がくるんだろうと、町の中の人が考え、間接的に良さを体験してくれると思っている。
- テーマは食であり、地域に行ったら美味しい物を食べたいだろうと思う。地域のおいしいものを掘り下げていけばいいと思う。カテゴリーとすれば、「食べて見て感じる。」食がなければいけないし、見せるためには、ちゃんと町として「お越しください」と作り上げなければいけない。今、遊休荒廃地や空き店舗が目立ってしまうなら、この町は人に来てもらいたくないのかな、と観光客は感じてしまう。
- 切り口は、交流と連携と協働である。やるからには事業化しなければならない。ボランティアでは続かない。こういうことをこれから政策に反映させていきたい。こういうことで定住人口が増えてくると思う。
- 今回、子供の医療費の公費負担を増やした理由は、東京都と横浜市では福祉の度合いが違う。人口移動があると思うからである。
- 岩松院から桜沢を歩いて晋平記念館まで歩いて行けるんですね。飯山駅ができて柳沢も歩ける。文化公園についても、連れて行った人がみんなこんな素晴らしい公園があるんですね、と驚く。替佐駅からもツーリズムとかでつなげていきたい。エリアで考えるとつながってくる。中野市だけで考えるのではなく、つなげて中に入ってきてもらって遊んでもらう、という仕掛けを作りたい。
- 行政は、経済政策、文化音楽振興、健康福祉、教育、都市基盤整備など、やらなければならぬことはたくさんあるが、連携を切り口にやっていきたい。
- ただ、一番重要なことは人材育成である。先頭きってやってくれる人を育成していきたい。人を育てて観光案内などボランティアを作っていきたい。行政は人が足りない、機動力が足りないので、人材育成をやっていきたい。

まとめ

- 変わらないのが異常、変わるのが常である。変化変容する未来を見据えて、中野市が最初に取り掛かれるものがあればいい。
- 交流している都市はたくさんあるが、1対1で行うと大変である。なにかイベントをやるときにすべて呼んでしまえばいい。そこに集まった都市は、「ああ、中野市が付き合っている都市なんだな」と感じる。またそこからネットワークが広がる。中野市は、そのネットワークの中心にいればいい。

市庁舎と市民会館について

- 市庁舎と市民会館については、検討会で意見を聞いて、私も悩んだが、東山文化圏を作りたいと考えた。
- それなりのものがあるって、道があればどうなるだろうか。ちょっと整備すれば人がいっぱい来るのではないかな。資産がいっぱいある。そこに商売する機会がでてくるのではないかな。
- ひとつなにか物を作るということは、面的な展開を考える。この市庁舎の整備について今考えているのは、バリアフリーにして、とにかく集まりやすく、市の真ん中に防災拠点として作りたい。市民の皆様が自由に入れる市庁舎としたい。また皆様の忌憚のない意見を聞きたい。
- 来年の実施計画もまとまってくるので、やることがわかると思う。また見ていただければと思います。本日はありがとうございました。

質疑応答・意見交換会

◆情報発信ソフトについて

Q1-1 新しい市長になられて、今までと違った雰囲気の中野市の夢が語られてありがたく思う。講話の中で話のあった情報発信するソフト（teachme）は一般市民で使えるのか。

A1-1 今は庁内 4 名で更新しているが、いずれは特派員を指名してどんどん地域の情報発信をしていければと思う。

Q1-2 たまたまテレビで見たが、タイの人が発信すれば、それを見たタイの人が来る、という相乗効果が生まれてくる。今の時代、外に発信する力が必要である。こじんまりとやるのではなく、市民も参加できるネットワークを構築できればいいと思う。

A1-2 中野市はこのソフトを初めて導入した。他市町村も導入に前向きな市町村があるので、中身で負けないよう、充実していかなければならない。

◆道路舗装について

Q2-1 現実の話をお願いしたいが、過日、更科から東山まで道路の全面舗装してもらってありがたかった。ただ、更科のお宮から高社寮までの道路についても全面舗装をお願いしたい。

A2-1 また改めて確認させてもらいたい。舗装の計画に入っているかもしれない（後日確認、計画はあり。実施時期は未定）。

◆バラまつり期間中の市街地活性化について

Q3-1 中野市も盛大に毎年バラまつりを開催しているが、県内外から大勢の人が来ている。たまたま公園は駐車場がないので、シャトルバスでお客さんの送迎をしているが、見るだけでなく、豊富な中野市の農産物をいっぱい食べてもらって買ってもらいたいと思う。お金を落としてもらう仕組み作りが必要と思う。シャトルバスのお客さんを見るたびもったいないと思う。

A3-1 たとえば、ねぶた祭りに行けば、空き地という空き地をすべて開放し、どこでも駐車していいよ、ということを行っている。これは、住民との協力関係が必要である。もしシャトルバスを使うにしても歩いて 1 キロ行かない範囲で駐車場をいっぱい手当てすれば、人は街中を歩く。

さらに広域に目を向けると、ぽんぽこの湯でバラ風呂をやっていると、入浴券を渡すなど、仕掛けを作っていきたい。まちなかの食堂の方に聞いたら、今年のバラまつりではあまりお金が落ちなかったとのこと。シャトルバスも良し悪しである。

費用の関係について、商工会議所で聞いたが、ガードマンが立てば人件費がかかるから、1 箇所に集中させて経済効果を出すことを考えたそうだが、ちょっと違うので

はないかと思う。その効果以上に街にお金を落ちる仕組み、中野市を知ってもらう仕組みづくりを考える方が優先だったかもしれない。これは反省点として出ている。やり方を考えていきたい。

また、特に若い女性向けに仕掛けづくりを考えていきたい。昔から言うように、若い女性が来ると、彼氏を連れてきて、心配になる親が来る、子供が生まれれば家族で来る、という仕掛けを作っていきたい。

土人形資料館で飯山市を紹介するなど、連携すれば奥が深くなってくる。そうすれば、観光客の時間消費ができる。

たとえば、御開帳は時間消費ができないそうです。新幹線の影響で平均滞在時間が3時間となってしまい、宿泊客がかなり減ったそうです。なんとかしなければいけない、というわけで「御開帳に来たらここをみなければならない」というものを連携して作らないといけない。

◆観光のためのシャクヤク畑について

Q4 バラまつりのバラの話があったが、市の花としてシャクヤクがある。シャクヤクは栽培のために間引いてしまうが、観光のためのシャクヤク畑を作れば良いと思う。一斉に咲いた花はものすごいインパクトがある。空き地とか遊休荒廃地に作れば良いと思う。

A4 シャクヤクがバラより早く咲くので、花をつなく、ということも考えています。

◆古墳の復元工事について

Q5 高遠地区では、古墳の復元工事を行っているが、東日本最古の前方後円墳と聞いている。一日も早く復元をお願いしたい。あと、どんな形ができるかわからないので、完成予想図を立てかけてほしい。

Q6 関連して、教育委員会が来て説明してくれるが、工事の説明がしきしない。我々としては、古墳を将来的にどんな完成図を描いているか、部を越えて、1つのプロジェクトを作って全体像を示してほしい。未来像を提案しているが、なかなか進まない。

A5, 6 私も、あるものは教育委員会が担当で、あるものは文スポ担当でと担当がわからない。どこがやってもいいのだが、資産は活かしていこうと思っている。

Q6-2 中野市の体質が部なら部で固まってしまうのでよくない。発想が出てこない。

A6-2 誰が見てもそうだと思う。市役所の職員はそれぞれ専門性をもって仕事をやっているのだから、集まってやらないといけない。徐々に変わっていくと思う。

古墳の再生については、年度を追って、きちっと予算を組んで行っている。早く復元させたい。法隆寺にせよ、平等院鳳凰堂にせよ、再生過程までも観光客を呼ぼうとしていてすごいと思う。

◆異業種間の会議と災害対策について

Q7 中野市も異業種（鉄とかプラスチックとか）の会議があっただろうと思う。家庭内で不便なところがあるけれども、イメージでこうしたらどうだろう、と考えることがある。ただ、プラスチックだけではできない。そのような会議がないので、商工会議所などでやったほうがいいとも思う。

もう一点、災害についてお聞きしたい。いつも「想定外」という話があるが、中野地域の千曲川は岩盤だからいいが、豊田地域は砂岸となるため、色々な災害があるかと思う。富倉峠から降りると田んぼへ砂が落ちてくるのが見える。もし、そうなった場合、例えば中野高校に水、ミルクなどの備蓄はできるか。

A7 いろいろなポイントがあったが、基本的には、災害については、たとえば、危険地域の指定にある地域に関しては、家屋が安全なのか、今回も土砂災害で大島で言われたが、地形を見ればわかるので、危険なところは危険だと認識してもらうというのが第一。

また備蓄については、横浜市でやっているが、地区のコンビニやスーパーと提携し、緊急災害時には物資を全部放出してもらうというやり方もある。中野市が備蓄するということも当然必要だが、集まってきた人のために用意しておくということも最低限やっておかないといけないと思う。

それよりも今重要なのは、危険なところに住んでいることを自覚すること、緊急時にはどこに避難するかを覚えてもらうこと。最近の雨の降り方は尋常ではないので、山沿いの地区は深層崩壊がおきて、土砂が崩れる可能性がある。だから、そういう意味でもこれからどこに逃げるか、いつ警戒態勢を敷くのか、総合的に頭の中に今あるものを吐きだして作りたい。想定外はない。想定外なんて言っている暇はない。

これから真剣に砂防とか急傾斜地、崖崩れを総点検しないとイケない。防災は第一に考えている。

◆ほんぼこの湯について

Q8-1 間山温泉が500円になり、高いから行かないという人がいるのでは。入湯税は市町村で税率が決められる。現在150円の入湯税を安くした方がいいのではないか。即答はいらないので、考えてほしい。

A8-1 総合的に考えています。どういうやり方がいいのか、いずれにせよ今の運営方式で本当にいいのだろうかと考えている。というのは、指定管理者制度は全体の経営をしているわけではなく、施設に何かあったら市で補填しているかたちである。それでいいのかなと。いつまでも結局ミルク補給の形になってしまう。そうではなくて、自助努力で経営が成り立つのか、規模とかがあり方とか、宿泊できるようにするのかか経営にメスを入れていきたいと考えている。

もみじ荘はおかげさまで黒字になっている。経営のやり方ですね。そもそも論だが、

市民のための福利厚生施設なのか、観光施設なのか、どういう施設がいいのか、そういう区分けをしなければいけない。

外からいっぱい来てもらって収益を上げるならもうちょっと宣伝の仕方がある。儲かれば価格感応度というのがあって、表面に入湯税があるなしはお客さんにとって関係ないので、500円より下がればお客さんも来てくれるかもしれない。目標人員年間どのくらい入ってもらうのかなど、計画目標を立てているのか立てていないのか、それもわからない。経営努力をして、目標を立てて、何人来てもらう、これで損益分岐点になる、だからこうするんだ、という計画書を上げてほしい。これはこれからやります。

◆農業施策について

Q8-2 農業の立場で、国はTPPでいろいろなことで強い農家を作るということで、人・農地プランもそうだし、それをやるための農地中間管理機構とか、中野市でも、集落営農支援事業とか、いろいろな制度を出している。しかし、若い人なら農地集積してできるかもしれないが、土地がたくさんあって強い農家は、コメだけならできるが、例えばぶどうなど果樹栽培はある程度の面積しかできない。ということは、日本型農業ということで家族経営が中心であり、国は、農業法人を作ればとか、まとまってリーダーつくってやれとか、企業参入するとか、いろいろ言うが、我々の立場は、そうじゃない。やはり日本型農業、家族経営で60歳から70歳の人が土地集積してやるのはとても大変。今後皆さんと話をするのに、農業に関する国の施策に対して市長はどう見ているかを教えてもらいたい。

A8-2 TPPが農業に絡むのは自由化になったときのことで、その前にあるのは食の安全保障だと思っている。

中山間地の農業のあり方については、私も真剣に考えている。私の知人で、有機無農薬の農作物を栽培し、自分で販売しているように工夫している方もいる。遊休荒廃地が中野市も増えている中で、それをうまくやる仕組み、仕掛けを研究しているところである。

